

真摯な姿映す釉薬美

元金津中校長 山口さん遺作展



山口喜三太さん

あわら・金津創作の森

花入れや皿 50点

元金津中校長で、退職後は陶芸をはじめ文学など地域の文化振興に貢献し、1996年に83歳で亡くなった山口喜三太さんの遺作を紹介する陶芸展が27日、あわら市金津創作の森で始まった。山口さんのアトリエなどにあった遺作の中から、釉薬の研究に没頭した真摯な姿と努力が感じられる約50点を展示している。1日まで。(増田智佳子)

分野でも活躍し旧金津町の文化振興に貢献し今年に入り、あわら市



釉薬を研究した山口さんの作品が並ぶ陶芸展。27日、あわら市金津創作の森

山口さんは、芦原焼の

遺作展には大森さんがつぼや花入れ、皿など約50点を厳選。「面識はなかったが、作品から伝わる山口さんの研究熱心さも伝えたかった」と話す。

山口さんは「あらためて作品を見ると、父はスタイルにこだわらず自由に作っていたんだと感じます」と話していた。

陶芸展は午前10時〜午後5時、最終日は午後4時まで。入場無料。

せて一般公開を始めた。福井市の文殊山登山口で23日、衰弱して地面にうずくまっているのを同市内の女性が見つけ、センターに届けた。身長107センチ、体重61キログラム。生後2カ月程度とみられ、ちようどと親離れする時期だった。(栗原愛)

大野・県自然センタ



収穫期を迎えた原木栽培のマイタケ。27日、大野市川合

味の「原点」学ぶ

大野で料亭経営者ら

老舗しようゆ店など巡り

県料理業生活衛生同業で、3割が搾りかすになる組合の研修会が26日、大野市内で開かれた。料亭の経営者ら組合員13人が飲食関係の事業所を巡り、老舗しようゆ店では仕込みの工程や味の「原点」を学んでいた。料理業界に関連する食材や道具を学ぶと毎年開いている。今年も明治初期から続く野村醤油(日吉町)と、白山ワイナリー(落合)の2カ所を訪ねた。



野村醤油では、6代目の野村明志さん(43)が作業工程や仕込み場を紹介。4千〜1万リットルの仕込みタンクが並ぶ一室では「絞ると7割がしょうゆ